

# 令和4年度 学校経営方針

北九州市立板櫃中学校  
校長 飯田 聖二

## 1 学校教育目標

### 自立・共生

～自立心にあふれ、他を思いやる心を持った生徒の育成～

- 自ら学び・考え、夢や希望を持ち「自己実現をめざす生徒の育成」(自立)
- 自他の生命や人権を尊重し行動できる「心豊かな生徒の育成」(共生)

## 2 学校教育目標達成の視点

- しつけるべきはしつける(心の育ち)
- 教えるべきは教える(学力)
- 鍛えるべきは鍛える(体力)

### <めざす生徒像> 自立・共生

- 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
- 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
- 思いやりの心もち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
- 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

### <めざす教師像> 協働・進化

教師自ら「主体的・対話的で深い学び」を実践する

- 教育公務員としての使命を自覚し、生徒の成長を願う教師(不易)
- 責任ある態度と教育実践で保護者や地域から信頼される教師(不易)
- 時代の要請に対応するため、必要な変化を恐れない教師(流行)
- “チーム板櫃68th”の一員として学校運営に積極的に参画し、協働意欲の高い教師

### <めざす学校像> 学び屋が集う 板櫃中学校の学び舎

※「学び屋」とは、学ぶことを喜びとし、主体的に学び続ける人

- 明るく活気にあふれ、生徒・教師が生き生きと安全で安心して生活できる学校
- 生徒と教師がお互いに信頼と誇り(愛校心)がもてる学校
- 清潔で美しく、落ち着いた環境で生活できる学校
- 保護者や地域と連携して「開かれた学校づくり」を推進し、信頼される学校

## 3 本年度の重点目標

- (1) 規律ある生活習慣の確立  
(「時を守り、場を清め、礼を正す」と組織的・機動的な生徒指導体制の確立を図る。)
- (2) 確かな学力の育成  
授業規律の確立に努めるとともに、家庭学習習慣の定着を図る。
- (3) 人間性豊かな生徒(豊かな心と健やかな体)の育成  
学校行事、体験活動、道德教育、人権教育、食育、部活動等の充実を図る。

- (4) 小中一貫・地域連携教育の推進  
学校・家庭・地域等の連携を一層深め、信頼される学校づくりを推進する。
- (5) 特別支援教育の推進  
特別な支援を必要とする個々の生徒の自立や社会参加に向けた取組を支援するという視点に立ち、適切な指導及び必要な支援を学校全体で行うとともに関係機関との連携を深める。
- (6) 組織的・機動的な学校運営を推進し、活気あふれた職場づくりを推進する。  
・声をかけあう職員室

#### 4 重点目標達成のための具体的な方策

##### (1) 規律ある生活習慣の確立と組織的・機動的な生徒指導体制の確立

- ① 目標達成のため、全職員で次の実践（凡事徹底）に取り組む。
  - 時を守る（時間厳守、チャイム席）
  - 場を清める（掃除の励行、環境美化）
  - 礼を正す（あいさつ、「ハイ」という返事、言葉遣い、正しい服装）
- ② 組織的・機動的な生徒指導体制の確立のため、生徒指導委員会の有効活用と、教師と生徒とのあたたかい人間関係に基づいた生徒指導を推進する。
- ③ 生徒指導の3つの原則を徹底する。
  - 危機回避 ※「先手を打ち、問題行動が生じない状況作り」
  - 初動が命 ※「その日にあったことは、その日に対応・処理を原則とし、初期対応を慎重かつ丁寧に」
  - 危機管理の「さしすせそ」最悪を想定し、慎重にかつ素早く、誠意をもって、組織で対応と「報告・連絡・相談・事後の確認と記録」
- ④ 生徒会執行部や専門委員会活動の活性化を図り、生徒会活動を充実させる。
- ⑤ いじめや不登校を生まない教育実践の充実を図り、生徒の発するサインを見逃さず、学校の組織を上げて未然防止・早期発見・早期解決に努める。
- ⑥ 教育相談等を活用して、生徒の目線に立った生徒理解に努める。

##### (2) 確かな学力の育成（授業規律・授業改善・家庭学習習慣の確立）と体力の向上

- ① 授業規律確立のため、全職員で板櫃中学校区授業五則（「時間厳守・礼にはじまり、礼におわる・場を整える・正しい姿勢・授業は目で聞く」）の定着に取り組む。
- ② 一時間一時間の授業を大切に「主体的・対話的で深い学び」のできる授業づくりを推進する。
- ③ 体力の向上を図るため、保健体育科の授業において、「話し合い・学び合う」活動を充実させるとともに、学校全体で運動習慣の定着に取り組む。
- ④ 授業改善ハンドブック等の活用、並びに授業におけるタブレットPCや電子黒板、ICT機器等の積極的な活用。
- ⑤ 基礎学力の定着・向上を図るため、家庭学習習慣の確立に努めるとともに、図書館の活用等の読書活動の充実を図る。
- ⑥ 西南女学院英語科の学生による放課後英語教室を実施するとともに、生徒の実態に応じた学習の機会の充実を図る。（コロナ禍がおさまれば）
- ⑦ OJT（教職員相互の学び合い）の取組を推進し指導力向上を図る。

##### (3) 人間性豊かな生徒（豊かな心と健やかな体）の育成

- ① 「いじめ」については「人として絶対に許されない」という認識に立ち、「命」を守り抜くという視点で、学校をあげて即日対応で取り組む。

- ② 集団の一員としての自覚と愛校心の高揚を図るため、学校行事、体験活動、生徒会活動等の充実に努める。
- ③ 健康で安全・安心な生活を送るため、自分自身だけでなく、他人の大切さも認めることができる人権感覚を育てるとともに、偏見や差別のない一人一人に居場所のある学校づくりを推進する。
- ④ 道徳科の時間を要として教育活動全体を通して「心を育てる教育」の推進を行う。道徳の時間を確実に実施する。また、「新版いのち」や「副読本」等を活用した人権教育の推進に努める。さらに、生徒のコミュニケーション能力を高め、人間関係を調整する能力や技術を身につけさせるため、学級活動等の時間に「北九州子どもつながりプログラム」（北九州市対人スキルアッププログラム）を計画的に実施する。（年間6時間以上）
- ⑤ 部活動を通して、礼儀やマナーを重んじるなど、人間力の育成に努めるとともに、適正な指導及び運営に努める。

#### （4）小中一貫・地域連携を基盤とした信頼される学校づくり

- ① 小中一貫・地域連携教育の効果的な取組を模索し、児童生徒の育ちの連続性を意識した教育活動を実践する。
- ② 積極的な家庭訪問による家庭との連携を強化する。（3日休んだら家庭訪問）
- ③ 保護者や地域の理解と信頼を得るために、学校通信等、積極的に情報を発信するとともに、PTAとの連携や地域会議・地域行事へ積極的に参加する。
- ④ 開かれた学校づくりのため、学校運営協議会と連携するとともに、学校評価等を効果的に活用する。
- ⑤ 計画的・組織的なキャリア教育を展開し、自己実現を図る資質を育成する。

#### （5）特別支援教育の推進

- ① 全校体制による特別支援学級の指導の充実に努める。
- ② 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒一人一人の教育的ニーズに応えるため、校内研修の充実と関係機関との連携を深める。
- ③ 個々の生徒の生活面や学習面の向上を目指し適切な指導や支援を組織的に行う。

#### （6）組織的・機動的な学校運営と活気あふれる職場づくり

- ① 機動的な学校運営を行うため、運営委員会や生徒指導委員会を有効に活用する。
- ② 明るく活気あふれた職場づくりを推進するため、“チーム板櫃 68th”として力を結集し、何事にも協働意欲のもと校務運営を推進するとともに、学年間の情報の共有化等、日常の報告・連絡・相談を（教務・教頭へ）積極的に行う。
- ③ 心と体の健康管理に努め、ワークライフバランスを推進する。
- ④ 教育公務員としての使命と責任を深く自覚し、綱紀粛正に努める。（個人情報等の管理・セクハラ・体罰・不適切な発言・飲酒運転等の防止 他）
- ⑤ 効率的で正確な事務処理を行うため、校務支援システムの活用を推進するとともに、定期的に事務改善会議を行う。

## その他

### (1) 学校図書館教育の推進

学校図書館職員やブックヘルパーと連携して学校図書館の環境整備に努める。  
生徒会専門委員会の活性化を図り、利用しやすい図書館運営に努める。  
読書に親しみ、習慣化が図られるよう蔵書や新刊の整備に努め、図書館の活用や生徒の利用数を増やす。

### (2) 健康・安全教育の推進

生徒、教職員の健康維持増進に努める。(内科検診、定期健康診断等の適切な実施と健康相談)

生徒指導部を中心に全教職員が、教育活動全般にわたる健康・安全教育の推進にあたり、事故発生時には迅速かつ適切に誠意をもってあたる。(初期対応の徹底に努める)

薬物乱用、喫煙防止等健康教育を徹底し、生徒の健全育成に努める。

学校給食を生かした「食育」指導を推進する。

避難訓練・防災訓練等を計画的に実施する。(自分の命は自分で守る)

### (3) 国際社会に貢献できる能力と実践的態度を育成する国際理解教育

学校における教育活動を通して、日本人としての自覚をもち、我が国の伝統や文化に誇りをもち、併せて諸外国の文化を理解し、人間尊重の精神や共に生きようとする実践的な態度や資質を育成する。

### (4) 情報化社会に対応した情報教育

コンピュータを有効に活用し、生徒のコンピュータ・リテラシーの育成に努める。  
携帯電話やPC等の電子機器によるトラブルを予防するための情報モラルアップを図り、保護者へも啓発する。

夜10時、スマホ、ケータイの電源OFF運動に努める。

### (5) 校支援システムの活用

業務改善の一環として

- ・会議等におけるペーパーレスの推進を図る。
- ・提案、企画内容等のデジタルデータのサーバー保管を図る。

## <学校経営方針設定の経緯（本校教育の基調）>

- 本校の教育は、日本国憲法・教育基本法及び学校教育法等の諸法令、並びに、本市の「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」や「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現に向けた指導のポイント、「北九州市学力・体力向上アクションプラン」を基に、公教育の立場を踏まえた教育活動を展開する中で、生涯学習の基盤となる基礎学力を土台とし、自ら学び自ら考える力など、生徒一人一人に生きる力を育む。
- 本校は、ここ数年小倉北区の中では、落ち着いた学校となっている。それは今日まで先生方が取り組んでこられた、一つ一つの実践が着実に成果として現れているのと思う。しかし、現状に慣れ、気を抜くと崩れるのは早い。回復には相当な困難とエネルギーが奪われる。常に危機意識をもって、“チーム板櫃 68th”で頑張ればと思う。
- 具体的な取組の一つとして、全ての教育活動において、中間層（20・60・20の「60」）の生徒の存在を意識した指導（育成）が生命線と考える。そして、20・60・20の下位「20」の生徒への粘り強い指導を行い、中間層への引き上げが必要である。  
例えば、各学年行事や学校行事等において、その都度、目的に応じた価値づけを教師が生徒の心に響くように「思い」を語る（訴える）ようにする。  
**「手間を惜しむと手間がかかる」**
- 昨年度から、評価の仕方が変わった。確実に進めていくために、一層の研修の充実を図っていく。
- 昨年度、「学校のきまり」を見直した。「先生から言われたから守る」きまりから、「自分たちで進んで守る」きまりへと、大きく舵を切った。儀式的行事・校外行事・入試等の際には、場に応じた指導も必要であるが、基本的には自立を促す指導が中心となる。